

第2部 国際協同組合年の課題を受けとめる ～誰も排除されない社会にむけた 「一般的利益」を題材に～

講師：都留文科大学非常勤講師・農園 VENTO E TERRA 園主 田中 夏子氏

この季節とは思えない冷たい雨のぱらつく5月30日金曜日、第21回総会后に田中夏子氏による熱意あふれる記念講演が行われました。

国連によって2012年に続いて今また国際協同組合年として制定された意義を、国連が協同組合をどのように捉え、何を期待しているのかという角度からのお話は、単にニュースの中の標語のようにしか考えたことのなかった筆者には非常に刺激的でした。

協同組合、私たちがワーコレとして大切に育んできた働き方を選ぶ人々が世界中にいて、世界中の組合員数が12億人もいるとは心強いことです。

さらに協同組合には、組合員のニーズと願い、「共益」に留まらず、営利主導の企業では掬い取れない社会の「一般的利益」を追求する役割が求められています。



それを思うと、フォーラム前半のはたらっくの事例報告が、私たちが本当に必要で貴重な一步を既に始めていることが誇らしいと思ったとき、折しも霧笛が響き(笑)、ここ横浜の地から拵げて行けと励まされているようでした。

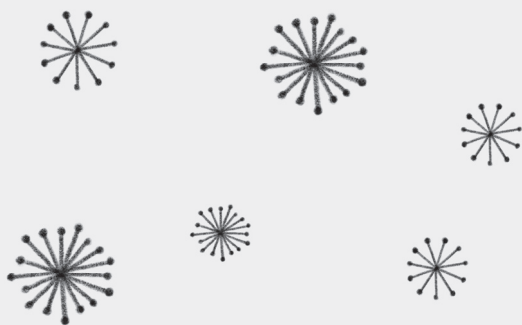
ご多分に漏れず人手不足の日々の業務に追われる気持ちに陥りがちな毎日ですが、心に理想を抱いて、意気揚々と歩んで行きたいと改めて感じた講演でした。

(岡 真帆)

アンケートより

はたらっく活動報告・田中夏子氏講演とも、有意義であり、自身の活動に役立つ部分があったと好評でした。いただいたアンケートからいくつかの声ををご紹介します。

- はたらっくの具体的な話は興味深かった。
- ワーカーズ・コレクティブ内に留まらず、回りの人を巻き込んでいくことが大事。
- 自分のやってきたことが評価できると思った。
- はたらっくがいかに地域の方々に寄り添った応援をしているかわかった。
- ワーカーズ・コレクティブで仕事の効率化に取り組んでいるが、原動力は「困っている人を何とかしてあげたい」だったことを思い出した。
- 居場所の大切さ、連携の大切さが重要であると再認識した。SOSを出せる場所として認識してもらうのも大切な役割と感じた。



今回、貴重な講演を聞くことができありがとうございました。いろいろと考えさせられたり、知らなかったことや再確認したこともあったりと有意義な時間でした。

私たちは、戦争で多くの犠牲者が出ている、食糧難で餓死する人々もいる、そういう緊張感の中で生きています。この不安定な国際情勢の中、2025年度が国際協同組合年として制定された意味や課題、「一般的利益」についてもお話がありました。

私たちが住んでいる地域では若者・高齢者や障害のある人、生活に困っている方、いろいろな方が暮らしています。貧困・生活困窮者に対する支援は、同じ地域に住む市民としてほっとけないとい

う思いからで、私たちが以前から取り組んできたことです。

先生のお話の中で、共に働く地域展開を自組織だけではなく、広く周りを巻き込み住民主体で行うことが大切で、非営利・協同労働の持続可能な運営も重要なのだと感じました。

だれ一人取り残さない、お互いさまの助け合いで、誰もが住み慣れた地域で、安心して平等に住み暮らし続けられる地域社会。生活協同組合とワーカーズ・コレクティブの市民参加で行う活動を実践していくことは、とても大切なことだと感じました。
(奥田 恵子)

質問と回答

Q 各はたらっく間の連携の工夫や人材育成について

A まず、はたらっくの代表者会議を年に4回設けています。そこで支援内容、自治体との連携、事業報告などを行っています。また、次年度予算案作成、運営体制についても共有します。人材育成はそれぞれのはたらっくで企画しますが、共有してご案内しています。

Q 居場所事業を行う中での難しさや気をつけていることは？

A どこに課題があるのかわからない方も多く、通ってもらうこと、リラックスしてもらうまで注意深く見守っています。利用者との距離感を意識することを大切にしています。